

—若手技術者のコーナー—

若手技術者としての現在

1. はじめに

平成27年に熊本市役所に入庁し、今年で5年目を迎えた。1～3年目は、北部土木センターの総務課に配属され、道路等の財産管理業務を担当し、4～5年目の現在は、同センターの高規格道路建設推進課に配属され、地域高規格道路の工事担当業務等に携わっている。

本稿では、これまでの業務を通して、感じたことやこれからの抱負について述べていきたい。

2. これまでの業務について

初めに配属となった総務課では、道路等の境界立会、市道認定や払下・付替といった本市が所有する公共用財産（道路・河川等敷地）を管理する業務に携わった。これらの業務は、道路と民有地の境界を確定したり、不要な道路敷地を払下げたりと、市や個人の財産へ与える影響が大きい業務であった。そのため、一つ一つの現場（案件）に対して、慎重かつ入念に資料調査や現地調査を行い、境界立会等に臨むよう心掛けた。財産を取扱う業務で難しい部分もあるが、境界が確定したり、市道認定が承認されて、地元の方等に感謝された際には大きな達成感があった。

4年目から配属となった高規格道路建設推進課では、地域高規格道路である熊本西環状道路（以下、西環状線という）の工事担当業務やその道路に関わる設計委託業務の担当をしている。この西環状線は、熊本都市圏の骨格を形成する道路網の一部を担っており、この道路整備により、市中心部へ流入する交通を分散することができ、市街地の慢性的な渋滞の緩和が期待されている。また、この道路は、熊本市で管理する唯一の自動車専用道路であり、渋滞緩和のみならず、救急搬送の迅速化や災害時の円滑な救助、支援活動への寄与が期待される重要度の高い道路である。そのような重責を担う事業課に工事担当経験がない中で配属され、8径間ポストテンション方式PC連結コンポ橋の下部工工事の担当となった。配属当初は不安が大きかったが、経験豊富な先輩方や上司、工事の現場代理人、設計コンサルタント等、様々な方に教を乞いながら、無事竣工を迎えるこ

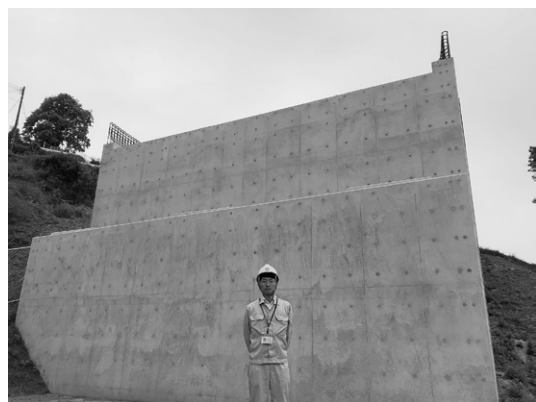
とができた。この経験により、これまでにない嬉しさ、やりがいを感じ、工事担当業務に携わる土木系公務員としての醍醐味を知ることができた。

3. 若手技術者として

入庁して5年目で、まだまだ知識も経験も足りないため、継続的な自己研鑽も求められるが、現在の職場では、他の自治体との交流や現場視察、技術研修等へ参加し、有意義な時間を過ごしている。中でも、本協会主催の講習会に参加した際には、他の自治体職員と交流し、業務上直面した問題について共有し合うことで、様々な問題に対する解決策を学んだ。その他、国土交通省のICT全面活用工事の現場を見学した際には、先進的で、生産性の高い土木現場を知ることができた。日常業務に加え、このような経験ができることで、日頃の業務に対する意欲がより向上し、好循環で仕事に臨むことができている。

4. おわりに

本市は近年、熊本地震や豪雨による災害に見舞われており、緊急輸送路としての道路等インフラ施設の重要性を認識させられた。そのような中、現在の部署では、緊急輸送路となる道路の建設を行っており、そこに携わっているという使命感とやりがいを感じながら、土木技術者として、さらに経験を積んでいきたいと考えている。



筆者担当現場にて（熊本市西区花園7丁目地内）

（熊本市 都市建設局 土木部 北部土木センター
高規格道路建設推進課 松尾 圭祐）